

佳作

命の選択

埼玉県 加須市立加須西中学校二年 中川 向日葵

クリスマスに、母から赤ちゃんがいると聞かされました。しばらく経って、赤ちゃんが男の子だったよと言われました。私には妹が二人いるので、次は男の子がいいと思っていたので嬉しかったです。

春が過ぎたあたりから母の体調が悪くなり、寝て過ごすようになりました。

「赤ちゃんが大きくなってきたから仕方ないんだよ。」

と母は言いました。だから、そんなに問題はないのだと思っていました。

しかし、日本全体が令和に入り盛り上がっている最中、母は救急車で運ばれ、緊急入院をしました。妊娠高血圧症というもので、緊急の帝王切開で赤ちゃんを出さないと、母体があぶないということでした。

父と二人で病院に駆けつけました。でも別室に連れていかれ、母には会えません。どうなっているのか？と聞いても、はっきり答えてもらえません。

「大丈夫だよね？」

いつもふざけて笑っている父が今日は笑いません。そのうち、産婦人科の医者がやってきました。

「これから緊急で帝王切開を行います。もしものときは母親と赤ちゃん、どちらを優先しますか？」

突然そんなことを言われ、驚いたのと一気に不安が襲ってきました。まさか、ドラマ以外でこんなことを言われるなんて思いませんでした。父の手が両膝の上で強く握りしめられるのを見ながら、

「母親優先をお願いします。」

という父のか細い声が聞こえました。

「えっ、死んじゃうの？」

涙がこみ上げてきました。

それから何時間もただひたすら待ちました。出産というものがこんなにも命がけだったなんて思いもしていませんでした。

三時間が経ち、手術室から医師が出てきました。二人とも無事ですよと言われ、父と二人で泣きながら喜びました。

それから一ヶ月、産まれた赤ちゃんはNICUに入院し、会えませんでした。でも鼻から管が入り、そこからミルクを飲んで、黄疸もひどく光療法もしています。二千グラムもなく小さく産まれた赤ちゃん。でも必死に生きています。命の重さを切実に感じた日でした。

両親からももらった命、母が命がけで産んでくれたことを知り、命の大切さを実感しました。弟が大きくなったら、この日のことを教えてあげたいと思います。